



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
https://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp



暖かな春の日差しに恵まれた4月3日、令和4年度入学式が本学体育館で行われ、希望に胸を膨らませた新入生323人（国際学部129人、経営情報学部194人）が、みずき野キャンパスでの大学生活をスタートさせました。

4月1日
付で新しく
就任した越
智敏夫学長
は「大学は
ものを考える場所の機能が重要で、自立した個人で構成される共同体です。職員一同、在学生が皆さんをお迎えしているのは、この共同体に皆さんが参加することを歓迎することでもあります」と式辞を述べ、「勉強の成果は常に途中経過で、終わりがあ

大学は時空超えた思索の場 ともに考え、ともに学ぼう

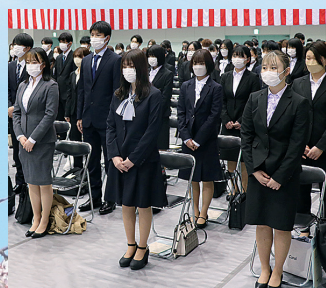
表の情報シ
在学生代
紹介されま
した。

「4年間、一緒にものごとをこころを
えていきましよう」と、やや緊張したス
姿の新入生に呼びかけました。
続いて祝電が披露され、派遣留学などで
提携する米国、ロシア、中国、韓国、カナ
ダの5大学から寄せられた祝福のメッセー

令和4年度入学式 希望を胸に323人

「4年間、一緒にものごとをこころを
えていきましよう」と、やや緊張したス
姿の新入生に呼びかけました。
続いて祝電が披露され、派遣留学などで
提携する米国、ロシア、中国、韓国、カナ
ダの5大学から寄せられた祝福のメッセー

STEM学科・國松美里さんが「少しでも世
界が広がるよう挑戦し続けてください」と
歓迎の言葉を贈ったあと、新入生代表の国
際文化学科・石山美野里さんが「4年間で
有意義なものとするために、常に向上心と
謙虚さを忘れず、日々成長していくことを
誓います」と力強く抱負を述べました。
今年も感染防止対策のため保護者の入場
は1人に制限され、会場に入れない保護者
や家族などもご覧いただけるよう、YouTu
be Liveも同時配信を行いました。また、入
学式後に行われていた恒例のサークルへの
勧誘呼びかけは中止されました。



CONTENTS

2~4面

令和4年度入学式特集
学長式辞
新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉

4・5面

企業説明会
初のオンライン方式に
大光銀行・そら野ファームとの3者連携
作る・食べる・つながるプロジェクト
学部長のメッセージ
オープンキャンパス案内

6・7面

第2回 新潟SDGsアワード
RWPの啓発活動に奨励賞
パワーリフティング選手権大会入賞
澤口ゼミ生が西区自治協議会で発表
にいがた観光親善大使として
教員の活動

8~12面

令和3年度卒業式特集
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞
退職教員あいさつ・卒業にあたって
JABEE認定プログラム
28人に修了証書授与
特別表彰・式典スナップ



NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
(スマートフォン対応)



Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face



Instagram



Twitter
@nuis_nabbit



YouTube
公式
チャンネル

入学式

式辞

新潟国際情報大学
学長 越智 敏夫

新入生の皆さん、入学おめでとうござい
ます。これから皆さんは4年間の大学生生
活を送ることになります。明るい希望をも
っている皆さんにお伝えするのが適切かど
うかわかりませんが、ここでひとつの事実
をお伝えしておきたいと思えます。それは、
4年後に皆さんは大学を卒業するでしょう
けれど、卒業後、全員が大きな後悔を共有
するということです。どのような後悔かとい
うと「もっと勉強しておけばよかった」と
いう後悔で

す。
そして4年
後、皆さんは
本学を卒業し
たあと、すぐ

大学は自立した個人の共同体

に働くことになるでしょうけれど、その後
悔の念は働いている日々のなかで大きくな
ることはあっても消えることはありません
。嘘だと思ふのなら、皆さんのまわり
にいる方々で大学を卒業した人たちに聞いて
みてください。まちがいない全員が「大学生
のときにもっと勉強しておけばよかった」と
いうはずで
さらにいえばこの後悔は日本だけの現象
ではありません。他の国でも卒業後のアン

ケートなどを見ると、大学でもっと勉強し
ておけばよかったという後悔は国境を越え
て、広く共通してみられるものです。私の
国外の友人たちも同様なことを言います。
大学卒業者がここまで同じ後悔を共有する
には何らかの理由があるはずで、私は大
学教員として以前からこの理由について考
えてきました。おそらく三つくらい理由
があるように思えます。

理由のひとつは簡単です。大学生であ
る4年間はあまりに楽しいことが多いとい
うことです。勉強する前に遊んでしまっ
てすね。そういう誘惑に負けてしまう。そ
れはそれで当然でしょうし、私自身も人の
ことは言えませんが、映画見たり、お芝居見
たり、他にもかなり遊んだし、お酒も飲み
ました。しかし言い訳するとそれらの遊び
にも意味はあったと思います。ちよつと長
くなるのでその話については、今日は省略
します。

ふたつめの理由もある程度は簡単です。
それは勉強という行為に終わりがいいから
です。私は勉強したと思っても、勉強して
不思議なもので、すればするほど絶望に近
いものを感じるようになります。勉強して

思いですが、彼／彼女らで自分のことを大
先生だと思っている者はいないはずで
それは謙遜ではなくて、勉強、研究する
ということはそういう発言をさせないよう
にできているからです。

以上のふたつの理由で、大学を卒業した
者すべてが「もっと勉強しておけばよかつ
た」と思う理由のかなりところは説明し
ているように思えます。でも本当はもうひ
とつあるんじゃないかと思つています。そ
れは「大学とは何をするところか」とい
う問題ともかわる、ちよつと面倒な問題で
す。

現在、本学をはじめ、日本中、また世界
中に大学と呼ばれる組織があります。なん
でこんな組織がひろがったのか、その理由
はどのようなものでしょうか。それは大学
で「ものを考える」ことを社会が良いと思
つてきたということ。さらには、その
「ものをとことん考える」ということはど
ういうことでしょうか。その点において、
大学はスキル、技能、技術、知識だけを教
える他の教育機関とは決定的に異なりま
す。ではこの「とことん考える」というこ
とは何を意味するのでしょうか。

それはふたつの側面をもつと思います。
すでにそのひとつはこうして始まっている
わけですが「考えることについて考える」
ということ。つまりこれも際限なく続
いていきます。はやりの言葉でいうと「メ
タ」ということになるかもしれません。メ

タレベルなど
という言葉も
ありますが、
意味の意味に
ついて考える
ことについて

考える、といつても良いでしょう。「とこ
とん考える」ということは、そういう際限
のない思考経路を作り上げていくことでも
あります。そうすることによって思考の方
法も身につけていくことになります。

しかしこの思考法をつくりあげるとい
うことは現実的に考えると、とても大変で、
ふつうは途中でやめてしまします。ノイロ
ーゼになつても怖いですが、だからふつ
うの人はあることについて批判するとき、そ

んなことに意味はない」などと言つてしま
います。しかしこれは思考の放棄です。意
味について考える根性のない人にかぎつて
こういう言い方で相手を批判するんです
ね。だからそんな人たちに反論するには
「意味がないってどういう意味だよ」と返
してやればいいのです。

そして「とことん考える」ということ、
その「とことん」ということのもう一つの
側面は、その考える内容が、いつでもどこ
でも通用するということです。ある時代の
ある地域だけに通用するような答えは、考
えたことのなかには入りません。どんな場
所、どんな時代でも成立するようなことを
解答として導きださないといいけないで
す。難しくいえば普遍的ということですが、
語源的には大学とも近いユニバーサルとい
う考えかたはここに生まれます。

私たちは大学でものを考える以上、それ
らの答えがいつ、どこでも成立するような
答えにしていける責任があります。しかしこ
れもまた現実的に考えると大変な作業で
す。というのもこの世界は複雑で、なおか
つ予測不可能なことがばかり起きるので、そ
の答えが簡単にはできないことばかりだか
らです。

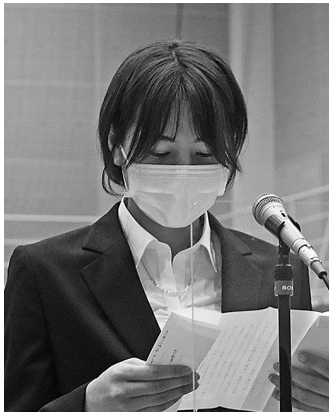
たとえば現在のロシアによるウクライナ
侵略も、どのようにして解決すべきか、国
連を中心としてこれだけ議論しても答えは
なかなか見つかりません。また答えが見つ
かったとしても、それが実効可能かどうか
もわかりません。ロシア、ウクライナの間
題を見てもわかるように、人によつても
の見え方も違うでしょうし、何を解決とす
るかも立場によつてまったく異なるもの
になつていきます。だからこそ今お話しした
普遍、ユニバーサルということが大事な
ものになつてきます。ある問題をどのように
考え、どのように解決をはかるのか。大事
だからこそ、この作業は大変な労力を必要
とします。

問題をどのように認識するか。その解決
方法をどのように作り、どのように実行す
るか。さらにはそれをどの時代のどの地域
の人々も納得するようにしなければならな
い。これはもううんざりするような作業で
す。

けれどもこのような作業について考えると、最近はやっているように見える「論破」という言葉がいかに下品で愚かであるか、ということもわかつています。本当に重要で深刻な問題をめぐっては、「論破しました」といった子どものケンカではあるまいし、ちゃんとした勝敗はつかないものばかりなんです。ところがテレビやネットでは論理など最初から放棄したようなめっちゃくちゃな論法、とさえ言えないような恫喝や脅しに近いもので、自分の立場を正当化し相手を批判するような人々が紹介されたりしています。末世だと思いますが、逆にいうと、これはいかに現代社会が普遍的な考え方、ユニバーサルな論理を必要としているかという証左でもあるといえるでしょう。

さらにはこのユニバーサルという単語にしても、それが先進資本主義社会の、それの一部の国の一部の階級や企業のための利益にしかならないようなものをユニバーサルと呼んでいるように見えます。それらを批判し、有効な代替案をつくることは本当に大変な作業です。今お話ししたようにウクライナの例を考えてだけでも、世界は複雑で対立に満ちて

私の抱負



新入生代表 国際文化学科 1年
石山 美野里

まだ寒さの残る中、少しずつ春の暖かさを感じる季節になりました。
今日は私たち新入生のためにこのような素晴らしい入学式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、数々の激

共にものごとをたくさん考えよう

います。しかしだからこそ国際的にものを考えるということは、国境、国籍、人種、文化、宗教、さらには性差、性的指向性、あらゆるものを超えて、全員が納得する回答を見つけ出そうとすることです。これは経営や情報においても同じです。ある時代のある会社だけに通用する経営方法など、なんの役にも立ちません。また情報はこれらの様々な境界を超えるからこそ情報なのであって、ある閉じられた時間だけの情報など、なんの役にも立ちません。そうした経営や情報について考えることも、メタ、ユニバーサルな方向へ思考を開放するということです。

しかし、これまでもお話ししたように、この「ものごとをたくさん考える」ということ、メタとユニバーサルにものを考えることは一般の社会生活でもとても難しいことです。どのような社会でも、ある時代、ある場所でもそのような社会になった過去の経緯がありますし、利害関係が複雑に張り巡らされていて、そのがんじがらめのなか

で私たちは生きていくからです。そういう私たちにはふだん、社会のあり方についてとことん考えることはしません。ノイローゼになるからです。そして社会のほうもだんだん自動的に動く領域が増えていきます。簡単にいえば、社会の流れにそって何も考えないで生きていくほうが楽だからです。たとえ社会のなかに大きな問題が生じてきても、それを問題として考えない人ばかりだったとしたら、それはそのま

まなかつたことにされていきます。

だからこそ大学という「ものを考える」場所の機能が重要になります。何が問題なのか、それを見つけて大学は社会に嫌われなければならぬのです。そして、そうした場所には4年間いてその「とことん考える」という行為、つまりは大学での勉強を一度でも経験した人たちは社会に出たあとでその行為の意味を、どんなに漠然としたものであっても、考えざるをえないのです。そ

ユニケーションを図れるような言語力や表現力も必要となります。これらの力を見識豊かな先生方から学び、同じ志を持つ友人たちと共に向上させていきたいと思えます。

また、勉学に励むだけでなく、日常生活

向上心忘れず

4年間を有意義に

世界中で流行したことで、様々な情報が飛び交い、その情報量に翻弄された人も少なくないのではないのでしょうか。情報化の進む社会で私たちは正しい情報を的確に判断し、享受する必要があります。また、ネットワーク技術の進化に伴い、社会のグローバル化も進み、外国の人と接する機会も増えました。その中で円滑にコミ

励のお言葉をいただき、心より御礼申し上げます。
現在、世界各地で新型コロナウイルス感染症が流行しており、私たちの住んでいる日本もその渦中にあります。ネットワーク技術が飛躍的に進化したこの時代に新型コロナウイルスが世界中で流行したことで、様々な情報が飛び交い、その情報量に翻弄された人も少なくないのではないのでしょうか。情報化の進む社会で私たちは正しい情報を的確に判断し、享受する必要があります。また、ネットワーク技術の進化に伴い、社会のグローバル化も進み、外国の人と接する機会も増えました。その中で円滑にコミ

新潟国際情報大学での4年間を有意義なものにするために、常に向上心を持ち、謙虚さを忘れず、経験豊富な先生方から多くのことを学びながら、日々成長し続けることをお誓いし、新入生代表の抱負とさせていただきます。

してその際限なくものを考えるということ、を、現実との落差もまじえて懐古的になつかしく思い出すのでしよう。だからこそ大学を卒業した人たちは自分の勉強をずっと不十分なものとして考え、「もっと勉強しておけばよかった」と思い続けるのです。これが大学を卒業した人たちの悔恨、後悔の実体ではないでしょうか。なので、4年後に皆さんがそのような後悔の念をもつたとしても、それは悪いことでも恥ずべきことでもありません。その後悔をもとに、考えることが困難な社会のなかで大学での勉強を思い出し、そのうえで現実に立ち向かってもいいと思います。これからそのための勉強が始まります。「ものをとことん考える」という経験です。

もしかししたら、その行為は皆さんを孤独にするかもしれません。いつでも、どこでも成立する考え方というのは、一見、優しいものに見えるかもしれませんが、それはべたべたした人間関係に依存した感情的な共同性、つまりはなれ合いやらコネ的なつながりを否定するからではないです。

しかし心配することはありません。どうでもいいような人間関係を作るくらいなら一人で生きていくべきです。友人は作ろうとして作るものではありません。そのような本来あるべき大学での勉強を続けていると、いつの間にか友人などはできているものです。それがEmphasisと並んで、大学を示すもうひとつの単語とも深く関連するColleagueという言葉の意味でもあります。同僚、仲間というこの単語は、ものをとことん考える大学という場が自立した個人によって構成される共同体であることを示しています。

私たち教職員一同、そして在学生が皆さんをお迎えしているのは、この共同体に皆さんが参加することを歓迎するということでもあります。4年間、一緒にものをとことん考えていきましょう。今日は入学、おめでとうございます。

歓迎のことば



在学生代表 情報システム学科

國松 美里

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。またご父母の皆様にも、お祝い申し上げます。在学生を代表し、皆さんに歓迎の意を表したいと思っています。

さて、新入生の皆さんにとって今日は、大学生活を始める記念日となります。皆さんは今、どんな気持ちでしょうか。

高校時代に皆さんは、数ある将来の選択肢の中で、大学進学を選択しました。これから起こるであろう様々な出来事に、希望に満ちあふれた気持ちがある一方で、新しい環境に身を投じることに対する不安もあるでしょう。皆

さんには、これから悔いのない大学生活を送ってもらいたいです。

前置きが長くなりましたが、これらの大学生活を送る上で、私が大事だと思っていることを二つほど皆さんにお伝えしたいと思います。一つは「何事にも積極的に挑戦すること」です。大学は高校とは違い、自由な時間が多すぎ、時間の使い方は人それぞれですが、私は皆さんに、多くの挑戦をする人になってほしいと思っています。学習やサークル活動など、何事にも何度でも挑戦し、例え失敗をして傷ついても、それから学び、得られたものがこれからの皆さんにとってかけがえのない財産になります。それができるのは自由な時間が多い大学生の特

失敗恐れず挑戦を

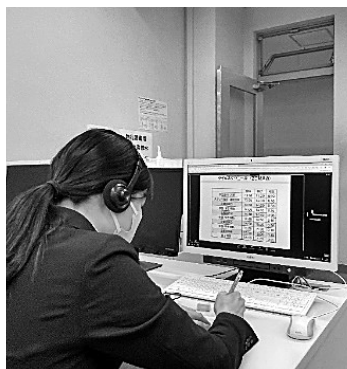
権だと思っています。ぜひとも、将来のあなたの世界が少しでも広がるように、挑戦を続ける人であってください。二つ目は、「人との縁を大切にすること」です。皆さんは、これまで多く

の縁に囲まれてきたことで、家族の縁、友達との縁、師弟の縁などの延長線上に今の皆さんがいます。ぜひ、今までお世話になった人たちの縁を大切にしてください。大学生活でも、多くの出会いがあると思います。自分を成長させてくれる人、自分を信じてくれる人など縁を増やし、大切にしたいと私は思っています。

最後にありますが、大学は勉強することだけがすべてではありません。自分が挑戦してみたいことと、とん挑戦し、人とのつながりを大切にして、様々なことを経験してください。どんな結果でも、皆さんの経験はそのまま皆さんの財産になります。

合同企業説明会

令和5年3月卒業予定者を対象にした学内合同企業説明会が3月16、17日



オンライン合同企業説明会に参加する学生

に開催され、275人の学生と県内企業76社が参加しました。新型コロナウイルス感染症の終息が見込まない状況下で開催方式を検討した結果、本学では初となるオンライン方式が採用されました。学生は各々希望する企業ブース入室し、画面越しではありますが、企業・団体の話に熱心に耳を傾け、業界や企業への理解を深めていました。

初のオンライン方式に

76社275人が参加

4社の説明会に参加する学生が多数を占めました。企業の採用担当者からは「積極的に質問をしていただき意欲の高さを感じた」「当社を知っていただける貴重な機会となった」という感想を頂きました。初のオンラインでの学内合同企業説明会となりましたが、総じて学生にとって有意義な時間となったようです。ご協力をいただいた企業・団体には、直前での開催方式変更にもかかわらず、快くお引き受け頂いたことに感謝申し上げます。(キャリア支援課)

大光銀行そら野ファームとの3者連携

新潟の地域産業・地域社会の持続的な発展につながる活動を行うため、2021年7月に包括連携協定を締結した本学と大光銀行は、本学近隣の農業施設「そら野テラス」を運営する「そら野ファーム」と連携し、3者で「作る・食べる・つながるプロジェクト」を展開することになりました。

本年3月3日にそら野テラスで実施した、プロジェクト立ち上げの記者発表では、大光銀行の長谷川幸夫地域産業支援部長が、「これまで銀行は金融支援中心だったが、今後はお客様が抱える課題を

「食から考える新潟と世界の未来」

ワークショップでスタート

解決することによって地域の活性化を目指すことが本業になりつつある。銀行全体で取り組んでいきたい」と挨拶。そら野ファームの藤田一雄代表取締役会長も「若い学生の意見を経営の中に取り込みたい。『カッコいい農業』を目指していきたい」と意気込みを語りました。

本学の国際文化学科・山田裕史准教授からは「このプロジェクトは学生にとって『学んだことを実践する場』であり、今後学生が実際に社会へ出た際、このプロジェクトの経験は非常に貴重だ」と挨拶がありました。

記者発表終了後、本学学生と大光銀行、そら野ファームも参加して「食から考える新潟と世界の未来」と題したワークショップを開催し、プロジェクトがスタートしました。今後学生が中心となり、さまざまな取り組みを行っていきます。



ワークショップの様子

新入生に望む

国際学部



申 銀珠 学部長

コロナ禍でのこの2年間、私たちは異常さの中で日々を送ってきました。平凡な日常の完全な回復にはまだまだ時間がかかるかも知れませんが、異常さの中で正常な状況を思い起こしたとき、そもそも大学の役割は何だろうかという、より本質的な問いと向き合うことになりました。新入

今、ここで、基本を大切に

生の皆さんにも、そもそも大学で学ぶことの意味は何だろうと真剣に考えるきっかけになったのではないのでしょうか。学びの形や働き方が多様化する中で、皆さんは大学で学ぶことを選択されました。それも新潟の大学、その中でも国際学部を選択されました。国際学部の教育の特徴は、充実した外国語教育と留学プログラム、多様な観点からの国際理解・地域研究、少人数クラスのゼミナールを柱とするものです。だれもが期待と不安を抱えての新しいスタートとなります。今後、反戦・平和運動は私たちの日常の中でより切実な課題となるでしょう。環境問題にも真摯に向き合わなければなりません。国際学部で学ぶことで皆さん一人一人が立派な大人に成長していくことを、教員の一人として心より応援したいと思います。ご入学、おめでとうございます。

経営情報学部



藤田 晴啓 学部長

ロシアによるウクライナ侵略、住民の殺戮・戦争犯罪という歴史に残る大禍の最中に入学された新入生へ。人権と自由が保証された日本で勉学できるといふことが

専門と英語の二刀流で世界に貢献できる

いかに貴重で稀なことを考え、保護者に感謝し、NUISに入学できた自分を褒めてください。この大学で、将来あらゆる仕事・分野で、地域に留まらず世界

にも同時に強くなれば、そこから地域に留まらず世界に通用する仕事に発展できます。アルバイトもしっかり兼務しながら専門と英語の勉強にいそしみ、次のス

に貢献できる生涯目標をみつけ、勉学して欲しいと希望します。経営情報学部では、地域に根ざしながらグローバルに発展できる経営学と、人間中心で世界経済に貢献できる情報システムを学び、新潟にいらながらも世界共存に関わる仕事に発展できるという勉学の機会が用意されています。世界貢献の鍵となるのは専門（経営・情報）と英語の二刀流です。メールやSNSを含めた英語コミュニケーションをこれから努力してある程度使いこなせるようになり、経営情報システムの専門

トップに進めるかは、入学後早い時期に生涯目標を立てて二刀流の勉学を開始するか否かにかかっています。新潟の企業は英語習得を努力しない社員は会社を担う人材としては期待しないことを知ってください。地方だから必要なのです。人口減少が進んでいる日本の市場縮小は否めず、地方の企業ほど世界市場を視野に考えなければいけないのです。サークル活動やアルバイトをするのもよし、経営や情報の専門と英語の勉強だけは欠かさないでください。NUISには、目標に向かって切磋琢磨する仲間、先生方がいます。そして自分らしさを見つけることができます。そんなNUISと一緒に学びましょう。

◆学部・学科紹介 ◆入学者選抜情報 ◆模擬授業 ◆語学体験(英語・ロシア語・中国語・韓国語) ◆入学者選抜対策講座 ◆コンピュータ実習 ◆実験体感コーナー ◆入学者選抜・海外留学・就職・学生生活個別相談 ◆小論文対策講座 ◆キャンパスツアー ◆在学生によるなんでも相談 ◆保護者対象プログラム

※時間やイベントについては、変更または中止となる場合があります。最新情報は本学ホームページをご覧ください。

高校生のためのnuis体験イベント!

オープンキャンパス2022

第1回 7/17日

第2回 8/7日

第3回 9/4日

第4回 12/11日

無料送迎バス運行

〈1回目〉 7/17日 〈2回目〉 8/7日

会場 新潟国際情報大学 本校

参加お申込み 本学ホームページまたは下記までお申込みください。

お問い合わせ先 入試・広報課 TEL 025-264-3777(直)

E-mail nyushikouho@nuis.ac.jp

第2回 新潟SDGsアワード

2030年を達成期限とする世界共通の目標「持続可能な開発目標（SDGs）」を学内外で推進する活動に取り組んでいるSDGs推進団体Rainbow World Project（以下RW P）が、このほど、「第2回新潟SDGsアワード」で奨励賞を受賞しました。

長引くコロナ禍のなかで、なかなか思うような活動ができませんでしたが、そのような状況の中で、顧問の山田裕史先生から、「新潟SDGsアワード」というイベントがあることを紹介していただきました。

RWPのメンバーで実際に応募するかどうかを協議し、「チャンスがあるから挑戦してみよう」というサークル長の一声で応募を決

RWPの啓発活動に奨励賞 ステッカー活動で17ゴールを明示

めました。どのような活動で応募しようか話し合った結果、2021年に作成した第1弾のSDGsステッカーなら、学生の活動として最も注目していただけののではないかと考えました。

第1弾のステッカーの内容は、主にSDGsの17のゴールを説明するものです。実際、ステッカーが学内の目につくところにあつたことから、SDGsを知った人も多いのではないでしょう。目に見える効果が伴っていたことも応募のきっかけでした。

SDGsアワードで奨励賞を受賞できてとてもうれしです。また、顧問の山田先生はもちろん、RWPの先輩方を含めたメンバーみなにとっても感謝しています。

現在、学内では地域連携委員会と共同で作成した第2弾のSDGsステッカーを置いています。食堂や学生会館など、学生の皆さんが多く利用する場所にありますが、ぜひ、ご覧になってください。

（国際学部 4年 津村和楓）

全国大会に参加する2週間前に右足の不調で、スポーツ外科を受診したら、ヘルニアの可能性があると診断されました。思うように右足に力が入りにくく、調整を続けた結果、「ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会」で、スクワット、ベンチプレス、デットリフトの3種目の自己新記録を出すことができました。順位は14人中8位と決して高い順位ではありませんが、自分の限界を出せた試合だったので、心に残る試合となりました。



左が筆者、中央が藤瀬部長

パワーリフティング選手権大会

試合を通して、最後まで諦めずに練習に励むことの大切さを感じました。ヘルニアだからと、自分のできることをやらずに出場していたら、自己ベストはおそらく達成できていません。パワーリフティングに限らず、受験でも就職活動でも、最後まで諦めずに取り組んでいけば、その努力は報われるかもしれません。これからのことを忘れずにいこうと思います。

4年生という最後の年になりますが、今後の目標はふたつあります。ひとつは来年の全国大会で1位を取り、世界大会に出場すること。もうひとつは一般74キロ級スクワットの新潟県記録を取ることで、今後も気を抜かずに練習に励んでいきます。

遠方まで足を運び、セコンドについてくださった藤瀬部長、バックアップをしてくださる大学の皆さま、いつも励ましてくれる部活動のメンバー、日ごろ支えてくれている両親への感謝の気持ちでいっぱいです。

（国際学部 4年 高橋元輝）

高橋元輝さん 自己新で入賞 夢は大きく世界大会に出場

藤田 美幸（経営学科・准教授）

・（2022年3月11日）「バーチャルマラソン大会における参加者の地域関与度に関する研究：微笑みの国を歩いて、走って、旅気分！ Virtual Fun Run in Thailandの参加者に着目して」スマートライフ学会2022年大会（オンライン）

3) 競争的資金獲得研究

鈴木 佑也（国際文化学科・准教授）

・（2021年4月より新規～2024年3月）2021年度若手研究「フルシチョフ政権期における建築プロジェクト・ソヴィエト宮殿の解明」研究代表者

4) 委員・社会的活動・記事・その他

佐藤 泰子（国際文化学科・講師）

・（2021年5月より継続）佐藤研究室（NUIS TOURISM PROJECT）と新潟県観光協会と共同研究
・（2021年11月27日）日本国際観光学会 第25回全国大会 学生動画コンクール「新潟県観光DXサポーターの取り組みについて」学術賞受賞（東海大学代々木キャンパス・ハイブリッド開催）

藤田 美幸（経営学科・准教授）

・（2022年2月4日）第3回越後平野における生態系ネットワーク推進協議会（オンライン）

山田 裕史（国際文化学科・准教授）

・（2022年1月27日）『新潟日報』『ここからSDGs〈2〉ファッション』にコメント掲載
・（2022年2月28日）シンポジウム「新たな『平和』の実現に向けて可能性を探る」に講師として参加（生徒による研究発表への講師および講演）（新潟市立高志中等教育学校・オンライン）
・（2022年3月3日）本学・大光銀行・そら野テラスによる連携事業「つくる・たべる・つながるプロジェクト」キックオフイベントにて、3～4年ゼミ有志8人とともにSDGsワークショップ「食」から考える新潟と世界の未来」を実施（新潟市西蒲区・そら野テラス）

澤口ゼミ生が西区自治協会で発表

催された西区自治協議会第3部会では、4年生の星野陽菜さんが「拠点設置による地域資源の活用と地域活性化」のタイトルでゼミを代表して発表しました。

自治協議会は、新潟市が2007年に政令市に移行した際に、市民と行政との協働によって住民自治の推進を図るために、市長の附属機関として各行政区に設置されました。

眞柄歩さん（今春卒業）は、設置から14年となる協議会で議論されてきた議題や委員のやりがいなどを詳細に分析し、その成果と課題を卒業論文「新潟市

眞柄さん 現状と課題を分析

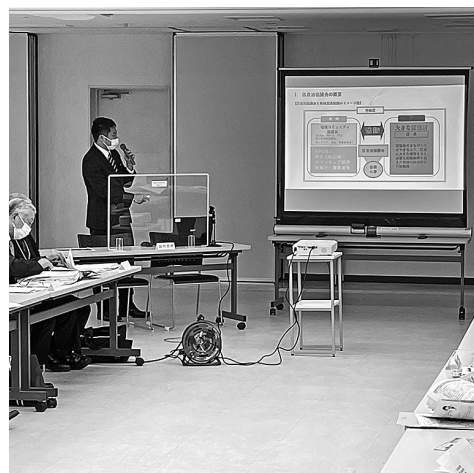
星野さん「潟の駅」整備を提案

地域活性化に結び付けるための拠点施設を「潟の駅」として赤塚地区に整備してはどうか、という提案です。

また、これが西区役地域課に評価され、2022年3月25日に西区役所で開催された西区自治協議会本会での発表に結びつきました。一方、同年3月8日に新潟市西区役所で開

区に整備してはどうか、という提案です。出席していた委員からは「赤塚に存在する様々な地域資源を一つにまとめた拠点を設置し、地域活性化に結び付けるという、これまでにない優れた発想で、しかも非常に具体的

で、ぜひ実現すべきである」といった評価をもらいました。この二つの発表は、地域活性化をテーマとした澤口ゼミでの勉学と研究成果を学外に向けて発信する取り組みの一環として行われたものです。



西区自治協議会本会で発表する眞柄歩さん

にいがた観光親善大使として

国際文化学科3年 市野瀬 鈴花

私は「にいがた観光親善大使」に憧れて、二度選考会に挑戦しました。そして二度目の挑戦となった昨年、第12代ににいがた観光親善大使に選出いただきました。

にいがた観光親善大使として活動し始めて

約半年。活動の中で今までお会いしたことがない方とお話ししたり、イベントや表彰式に参加させていただいたり、貴重な経験をさせていただいております。それに加え、SNSを活用し、全国に新潟の魅力を発信する活動もしています。

私は

笑顔忘れずSNSで新潟の魅力発信

方に笑顔で話しかけることができて、さらに新潟が大好きになりました。これからもお会いした方や、SNSでの投稿を楽しみにしてください。



国際学部 藤泰子先生の研究室に所属し、「NUTS TOURISM PROJECT」に参加しています。その活動で学んだことを活かし、Instagramでの情報発信の際には、日本語だけでなく英語でも記事を書き、誰が読んでもしっかりやす

き、そして新潟のすばらしさを伝えられる存在になれるよう、誠心誠意活動していきたいと思っています。残りの約半年間、にいがた観光親善大使としてさらに活躍できるよう努めていきますので、応援よろしく願っています。

教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

- 區 建英(国際文化学科・教授)
 - ・(2022年1月)「丸山真男思想中的『永恆與時間』」黄俊傑・安藤隆徳編『東亞思想交流史中の脈絡性轉換』國立臺灣大學人文社會高等研究院東亞儒學研究中心。(285~320頁)
 - ・(2022年1月)「從丸山真男的『古層』視點看日本的歷史意識」黄俊傑・安藤隆徳編『東亞思想交流史中の脈絡性轉換』國立臺灣大學人文社會高等研究院東亞儒學研究中心。(321~357頁)
- 鈴木 佑也(国際文化学科・准教授)
 - ・(2021年11月)「ソヴィエト宮殿 建設計画の誕生から頓挫まで」水声社。(444頁)
- 瀬戸 裕之(国際文化学科・准教授)
 - ・(2021年12月)「ラオス人民民主共和国」鮎京正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』明石書店。(459~508頁)
- 堀川 祐里(国際文化学科・講師)
 - ・(2022年2月)「戦時日本への働く女たち——ジェンダー平等な労働環境を目指して」見洋書房

(244頁)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

- ・(2022年3月)「カンボジア：シハヌークによる政治権力の独占と王政の成立」粕谷祐子編著『アジアの脱植民地化と体制変動：民主制と独裁の歴史的起源』白水社。(457~484頁)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

- ・(2022年1月)『韓日会談1965 戦後韓日関係の原点を検証する』(朝鮮語、嚴泰奉訳)。(285頁)

2) 学会・研究会・講演等

梅原 英一(情報システム学科・教授)

- ・(2021年12月13日) Ueda, K. "Prediction of Nikkei VI increase for reducing investment risk using Yahoo! JAPAN stock BBS", The 6th International Workshop on Application of Big Data for Computational Social Science in WI-IAT'21 (Online)
- ・(2022年1月27日・28日) 上田健太郎「金融指標予測のためのソーシャルメディアに適した分散表現獲得手法の検討」社会情報システム学シンポジウム (オンライン)

令和3年度

卒業式

学長式辞

新 潟 国 際 情 報 大 学
学 長 野 崎 茂

本日ここに学士の学位を授与された情報学部7名、国際学部125名、経営情報学部163名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。新潟国際情報大学の役員、教職員、関係者一同より祝福致します。併せてご家族、ご友人、ご関係の皆さまにもお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染者の数は、新潟県にあつては波があるものの依然高止まりの状態が続いております。そのような中ではありますが、まん延防止等重点措置の解除もあり、本日こうして昨年度に引き続きこの新潟市民芸術文化会館において卒業式を挙行できますことは、せめてもの救いということなのではないでしょうか。

本日ここに参列の皆さんはどんな思いで式典に臨んでおられますでしょうか。4年間の大学生生活後半は不完全燃焼のまま過ごさざるを得ず、思い残すところが多かったという方もおられるかも知れません。他方で、制約が多々ある中でも精一杯の努力で所定の課程を修了したという達成感に浸っておられる方もいるかも知れません。思いはそれぞれでありましょう。我々教職員は採り得る中で最善の策を追求して来たつもりではありますが、皆さんの大学生活4年間における夢や希望に必ずしも十分に応えることが出来なかったのではないかという忤怩たる思いが残っております。皆さんにはコロナ禍拡大の兆しが見え始めた2年前に急遽立ち上げたオンライン遠隔授

業へも即座に、また柔軟に対応していただきました。単に新しく採り入れられたオンライン講義形式に順応しただけではなく、自主的なグループワークへの取組みに発展させるなど新たな工夫を凝らしてくれた方々もおられました。「情報大学」の名に恥じない、皆さんのデジタル能力、習熟度の高さには感心させられること頻りでした。

学修面のみならず生活面においても然りです。感染リスクを回避するため社会活動全般に亘る行動規制が敷かれ、経済活動の縮小が余儀なくされました。それに伴う世帯収入への影響やアルバイトの機会の減少なども相俟って、経済的な困難に対処しなければならなかった方も多かったことと思います。そうした状況に対して不十分ながらも本学のみならず国を挙げての支援が整備されて参りました。これらの支援制度を活用するなどしながら皆さん方はこの苦境を乗り越え、本日この

「アジアと共に」を忘れず
日本の未来を切り開け

日を迎えることができた訳です。

ここで皆さんが大学生活を送ってこられたこの大学についてもう一度振り返ってみましょう。私たちの新潟国際情報大学は1994年に環日本海地域の中核都市新潟で、情報化、国際化社会で活躍できる人材育成を行うことを目的として設立された大学です。そのため対岸各国との交流など地理的条件を活かした教育を行うことに早くから注力して参りました。建学の理念として「日本文化と異文化の違いを理解し、国や地域を越えて情報文化に貢献できる人材を育成し、情報社会を先導し、国、地域、人間の文化を尊重しつつ国や地域を越えて人類の福祉向上に貢献する」と謳っております。本学はロシア、中国、朝鮮、そして日本の環日本海圏と呼ばれる国際地域圏の発展に寄与し、日本海側の中心ともいふべき新潟の県民、市民が強く要望している国際化と情報化、並びに地域文化振興という要請にこたえることを使命としております。

そこで私たちの日本の、そしてその中の新潟の、立ち位置から考えてみますと、この地に生きる私たちとしましては、「アジアと共に生きる」ということが考えられます。今現在世界中の耳目はウクライナやヨーロッパ東部そしてロシアに集まっておりますが、近年中国の周辺地域への勢力拡張の動きに伴い海洋権益を巡り周縁諸国との軋轢が多発し始めております。世界の軸はまさに大西洋から太平洋に移りつつあると言えましょう。その時に日本はアジアと共に生きるということである。これからのいろいろな恩恵を享受できるはずですが、その場合、裨益（ひえき）を享受することだけを考えるのではなく本当の意味で「アジアの国々」と、そしてそれらの国の人々と共に歩む」という考え方が特に大事になると思います。

それから「海に生きる」ということも考える必要があります。日本の面積は38万平方キロメートルで、世界61位に過ぎません。しかし、排他的経済水域EEZでは、68000の島を有する日本は、447万平方キロメートル

ルで国土の12倍となり、世界第6位です。例えば中国は国土面積では世界第3位ですが、EEZでは日本のわずかに二割です。そして、これに深さを加味した体積で比較しますと、日本は世界第4位になるとのこと。体積がたぶんあるということとは、当然レアメタルなどの海洋資源とか漁業とかエネルギーとか、様々な宝がそこに眠っているわけです。メタンハイドレートなどの開発可能性を巡って新潟県でも議論がなされたのも記憶に新しいところ

です。日本は海洋国家としてもっと真剣に「海に生きる」ということを考えていく必要があります。その時には、新潟はその地の利を活かして物流や情報の結節点になり得るはずですが、実際30年程前には日本海を東の地中海に見立てて新潟を対岸諸国との交流の拠点にして行こうという動きが起きました。本学の設立はその流れに沿ったものと言えましょう。ちなみに、今から百年以上前に米国の海軍

大学の校長を務め、現代史に、そして日本にも多大な影響を与えたアルフレッド・T・マハン（1840-1914）は「国力を高揚させるためには通商の拡大が重要であり、そのためには必然的に貿易品の生産が不可欠である」と説きます。これを実現するための要素として、当該国の地理的位置、資源の分布なども含めた国勢つまり産業力、そして国民性などを挙げております。

こうした考え方に沿うようにして、周辺国のみならず世界中に勢力伸長を図ろうとしているのが先程も述べました中国。習近平国家主席が2013年に提唱したシルクロード経済圏構想は、かつて中国と欧州を結んだシルクロードを模して中央アジア經由の陸路「シルクロード経済ベルト」つまり「一帯一路」を再興、強化し、これにインド洋經由の海路、いわゆる「21世紀海上シルクロード」とも言うべき「一路」を加え、その中継地点にある港湾などのインフラ整備拡充を行うことで、陸と海から広域経済圏をつくらうというものです。

2017年にはスリランカのハンバンタ港の中国への99年の租借が合意されました。これに対して「債務の罠」「Debt Trap」と呼ぶ批判が起ったのも記憶に新しいところで

す。ギリシアのピレウス港についても同国が債務問題で苦境に陥りEUが救済措置に手を拱いているタイミングに乗じて、2016年には中国遠洋海運集団（COSCO）が経営権を取得しました。

2019年3月にはイタリアとG7で初めて一帯一路構想で協力することで合意に達しております。イタリアは中国との間でアドリア海のトリエステ港や西のジェノバ港の機能強化を図っていくとのこと。このほかにも中国はEU加盟国とは東欧圏を中心に13カ国と覚書に調印し関係を強化しております。これは少し横道に逸れてしまいましたが、これは県レベル、都市レベルの話として考えてみても当てはまるものと思います。そこでもう一度新潟が置かれている状況という観点から考えてみましょう。

日本は、総延長約35000キロメートルにおよぶ長い海岸線を有しており、諸外国と比べても、国土面積当たりの海岸線延長は非常に長くなっています。その中で新潟県の海岸延長は本土330・8kmと離島303・9

kmで総延長634・7kmにのびります。本学の至近にある新潟砂丘は北東部の村上市岩船港から南西部の角田山麓まで連続して分布している全長70kmと日本の長さ誇ります。ただ砂丘が何列もの列状に並んでいたりして砂丘というイメージがありません。鳥取砂丘のような観光資源とするには今一つなのかも知れません。

とは言え先ほど挙げた国を富ませる要素の一つとしての地理的位置という点で、本州のほぼ中央に位置する新潟は太平洋側諸都市や工業地帯へのアクセスも容易という点で極めて恵まれていると言えます。

一方県勢という観点から新潟の産業はどんな状況かと言いますと、新潟県がまとめた令和3年度の統計によれば、県内総生産、県民所得はいずれも全国16位、農業県ということもあり米を中心に多岐にわたる農業産出額は同13位、林業産出額は同2位、漁獲量は同24位のレベルで、食材の宝庫であることをアピールした標語「うまさぎつしり新潟」の面目

理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 佐々木 辰弥

新潟国際情報大学、第25回卒業生、295名の皆さん、卒業おめでとうございます。併せてご参列のご父母の皆様、心よりお喜び申し上げます。学校法人新潟平成学院の佐々木と申します。一言お祝いを申し上げます。

(今ほど、学長の式辞にもございましたので、コロナ問題や、紛争、環境問題等は割愛させていただきます)。

新型コロナウイルスの猛威は、我々のこれまでの日常を大きく変化させました。本学においても、2年前の前期授業はオンラインで行われる等今まで経験したことのないパンデミックに襲われました。そして未だ

躍如といったところ。製造業ではモノづくりに欠かれない高度な基盤技術が集積する国内有数のクラスターがあり、繊維などの伝統工芸品の生産も盛んで、製造業の事業所数は同9位、付加価値額は同20位と健闘しております。ところが如何せん、新規事業の開業率となりまして全国45位に沈んでしまっています。自然環境に恵まれ、相当程度自給自足が可能な農業生産物があり、製造業も盛んという豊かなバックヤードを持っている。あくせう無理をしてリスクを取りながら世界各地や県外の新天地を求める必要もないということなのでしようか。

先程紹介したマハンは、絶対王政の下で宮廷文化の華を開かせたフランスとその百年ほど後のヴィクトリア女王期にパクス・ブリタニカと称される時代を築き上げたイギリスの例を取り、「フランスには気候温和で快適な土地があり、国内の産物で自国民の需要を十二分に満たしうるのである。これに反して、イギリスは自然の恵みに乏しく、その製造業

その流行は収まらず、猛威を振るっています。ただ、嘆いても、恨んでもこの事実は変わりません。これからは、これが新しい日常と受け入れ、対応していかなければなりません。

また、今、世界は、武力による地域紛争、人種差別や人権問題、自然災害や環境問題等、人類の生命を脅かす脅威は、人類にとって非常事態の様相を呈してまいりました。私たちに何となく、対岸の火事では済まない問題が迫っています。

皆さんは、卒業

業式が終了すると、いよいよこの不確実な実社会の只中に踏み出すことになります。できれば、明るく、住み良い社会であってほしいと願いますが、そう簡単ではないでしょう。しかし、怯まないでください。この4年間、皆さんは、「自主的に判断し、自ら表現する」ことを学んできました。先生や友人と培ったコミュニケーション力を活かして社会人としてのキャリアを積み重ねていくください。「私にはそんな力はない」と臆する人があるかもしれませんが、他人と比べる必要はありません。この4年間の学びで、考える力、判断する力が必ず身についています。今

学んだ力で希望を語れる人に

が発達するようになるまでは輸出品も僅少であった。イギリス人が諸資源に欠き恵まれた状況でなかったことが逆に、その精力的な活動力や海上進出の機運を促す結果となったのである」と論じております。ここで述べられているフランスの例など、まさに現在新潟が置かれている状況にピッタリ当てはまるのではないでしようか。

そしてもう一つの要素として挙げられた国民性ならぬ県民性。新潟県人は温厚従順かつ我慢強いといわれます。悪く言えば、覇気に乏しく引つ込み思案ということなのかも知れません。こうしたいろいろな要因が反映された結果が、停滞が続いていると言われて久しい今の新潟の姿ということなのでしょう。この新潟の現状を何とか打破して活気ある新潟を復活させたい。

私たち教職員は冒頭申し上げたとおり「日本文化と異文化の違いを理解し、国や地域を越えて情報文化に貢献できる人材を育成する」ことに努めて参りました。つまるところ

日まで学んだことに自信を持って一歩踏み出してください。

ところで、4年前の入学の頃を思い出してみてください。皆さんの多くは本学を第一志望に選んでくれたことと思いますが、中には、そうでない方もいたのではないかと思います。言われるままに登校し、流れに合せて授業に出席することで「良し」としていたのではないでしようか？

4年後の今日はどうでしょう？ 本音で語り合える仲間との出会い、授業、ゼミを通して学ぶ喜びを覚えてくれた先生、大人としてのこの4年間の学園生活は、かけがえのない一生の宝物になったはず。『いやいや』では、長続きしません、途中で本学を去っていただいましょう。

これから向き合う仕事も同じです。まず、自分の仕事を好きになってください。新入社員が業績で一番になることは難しくても、仕事を一番好きになることはできます。単純なことですが、最も大切なことだと思います。小説家の井上靖は、「努力する人は希望を語

日本の資産は「海」とこの「人、人材」しかないといっても過言ではありません。本学で国際化の何たるか、情報化の何たるかを学んだ若い皆さん方はその知識、能力をこれから社会に還元して行かなければなりません。

日本の未来は、そして新潟の将来は皆さんの双肩にかかっているのです。皆さんの力に大いに期待をしております。

最後になりますが「顧みての微笑み」という言葉があります。これは本日の皆さんのような門出を迎える方達にいつも私が贈る言葉です。先程来ご紹介した内容のような皆さんの鼓舞する類の寸言ではありません。饒言言葉としては何の変哲もない素直でさりげない言葉かも知れませんが、皆さんがこれからの人生の節目節目で来し方を振り返って見た時に、満ち足りた気持ちで微笑みを以て総括ができるようにと、そしてまた皆さんのこれから人生に幸多かれと祈りつつ、私からの祝いの言葉、饒言とさせていただきます。本日はご卒業誠にありがとうございます。

り、怠ける人は不満を語る」と言っています。皆さん一人ひとりが希望を語る人になってください。

本学は平成6年に開学し、これまで28年間、一度も定員割れすることなく極めて順調に運営がなされてきました。教職員のご尽力はもとより、卒業生の、それぞれの分野での活躍が評価されている証左だと思います。

一方、一部の大学の理事や理事長、教職員の不祥事により、理事会、評議員会のあり方など、学校法人のガバナンス改革が求められております。実は、私も昨年12月に就任したばかりの新米の理事長です。少子化が進み、大学運営は益々厳しくなっています。時代の変化に対応し、社会の期待に応える大学運営の確立に向け、また、皆さんが、卒業された後も自慢できる母校であり続けることができるよう、法人・教職員が一体となり、大学改革を推進してまいります。

これから社会人として人生を送られる皆さんには、常に感謝と敬意の心を忘れず、健康で希望に満ちた人生を歩まれるよう心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉と致します。

ガバナンス改革



〈総代〉経営学科
横木 茅斗

冬の厳しい寒さも和らぎ、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。本日は教職員をはじめ、ご来賓、保護者の皆様のご臨席のもと、私たちのために盛大な卒業式を挙げていただき、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

教え合い高め合った4年間

最後まで
学生に寄り
添ってくだ
さった先生

4年前の春、慣れないスーツに身を包み、この先の大学生活に大きな不安と期待を抱いていた私たちは今、早すぎる時の流れを惜しみながらも、充実した大学生活の思い出に浸っています。

この大学生活で強く感じたことは、人とのつながりの大切さです。大学の授業は、今まで触れたことのない分野や、人それぞれ苦手に感じる分野などがあります。その中で、友人と分らないところを教え合い、お互い高めあってきました。いつしか、自分のための勉強という気持ちと同時に、友人のためにも頑張りたいと思うようになりました。

このように、友人とのつながりが、結果的に自分の学力の向上につながりました。ともに高めあった友人には、とても感謝しています。また、私たちの疑問に丁寧に答

えてくださった先生方にも深く感謝申し上げます。

勉強以外にも、友人や先生方と様々な思い出を作ることができました。行ったことのない場所に行ったり、したことの無いスポーツに挑戦してみたり、それら全てが私にとって、大きな経験になりました。

友人や先生方に恵まれていた分、卒業式を迎えて、寂しい気持ちでいっぱいです。これから、目の前に座っている295人の卒業生一人一人が、自分で決めた道を自分の足で歩いていきます。たとえこの先様々な困難に遭遇しても、大学での学びを糧にその困難を乗り越え、成長できるよう励んでいきます。

祝電

順不同

日本私立大学協会	会長	小原 芳明 様
新潟県	知事	花角 英世 様
新潟市	市長	中原 八一 様
株式会社マルイ	代表取締役	清水 辰雄 様
社会福祉法人苗場福祉会	理事長	湖山 泰成 様
新潟総合警備保障株式会社	代表取締役社長	廣田 幹人 様

退職教員 あいさつ



地域に必要な教員目指して

経営学科講師 土屋 翔

4年間、大変お世話になりました。経営情報学部第1期生とともに卒業致します。新潟県が必要とする教員は、地域と協働できる教員です。面白い教員がいると地域が地域に、経営者が経営者に

紹介し、どんどんネットワークが広がっていきます。萬屋のような教員になるため、日々邁進するばかりでした。(現在も)。また株式会社、一般社団法人、NPO法人を設立することができたのは、素晴らしい仲間がいるからです。最高の財産です。



充実した12年間に満足感

情報システム学科教授 上西園 武良

企業での約30年の勤務後、2010年4月に本学に着任しました。着任直後は勝手がわからず、教職員の皆さんや特に学生諸君に

時代にはやりたくてもやれなかった研究を思い切りやらせてもらい満足しています。また、着任前にはあまり想像していなかったのですが、活力に満ち鍛えがいのある学生諸君と出会ったことは望外の発展を祈願しております。



教えることで学んだ日々

国際文化学科准教授 佐藤 若菜

2016年4月から6年間、お世話になりました。授業では、学生の皆さんが書いたコメントペー

気持ちで新しいことに取り組む学生の姿に心打たれました。教えることで、多くのことを感じ、学んだ6年間で卒業生・在学生の皆さん、同学部の先生がた、職

パーからたくさん刺激を受けました。派遣留学の引率やゼミでは、初雪を踏むように、わくわくした

員の皆さま、ありがとうございました。

私の大学4年間は、国際交流ファシリテーターとの出会いから始まりまし
た。3年間国際交流
ファシリテーターと
して活動し、計8校
の学校を訪れ国際理
解教育を実践できた
ことは、私の大きな
自信につながり、ま
た大学院への進学に
も大きな影響を与え
ました。

さらに山田裕史准
教授のゼミナールに
所属し4年間の集大成ともい
える卒業論文を書きながら

一生忘れられない経験

国際文化学科 上村 菜々美

NWプロジェクトや弥彦マル
シェりんくなど、産学連携の
活動にも参加し、大
変貴重な経験をさせ
ていただきました。
入学当初は想像も
していなかった、多
くの出会いと経験は
一生忘れることはあ
りません。支えてく
ださった先生方、両
親、かけがえのない
大学の友達に感謝し
ます。本当にありが
とうございました。

卒業にあたって

早すぎる時の流れを惜しみながら

一番思い出に残っているの
は北京への派遣留学です。入
学したころは、興味
があつた中国語を学
ぶ以外何もしたいこ
とがなく、ただ授業
を受け、アルバイト
をするだけの日々で
した。

夢をかなえた北京留学

国際文化学科 廣瀬 祐大

しかし、2年生の
時に派遣留学で北京
へ行くことを決心し
ました。私の母親か
ら、学生のころは留
学したいと思っただ
けで、中途半端に終わってしま
ったと聞いて、「やりたいこ
す。

とを叶えるのは大学生活しか
ない」と思い、北京留学へ行
きました。
留学で語学力を向
上できたのはもちろ
ん、他国の学生との
交流やサークル活動
での交流もできまし
た。後押ししてくれ
たのは、両親だけで
はなく、中国語専攻
の佐藤若菜先生や區
建英先生が存在もあ
りました。この経験
を糧に有意義な社会
人生を送りたいと思いま
す。

大学生活を振り返ると、入
学時は「4年は長いものだろ
う」と考えていまし
たが、実際はとても
早かったと感じてい
ます。
その中で思い出深
いものは、学友会執
行部での取り組みで
す。学友会執行部に
入った理由は、「既
に知人が所属してい
たから」という随分
軽い理由です。
こんな理由で所属
しましたが、大学内行事の企
画から運営まで、ありとあら
ゆる仕事をするのはとても楽
しかったです。学友会の中
でも責任を持たなくて
はいけない学友会長
や会計を務めること
ができたのは、将来
のためにも良い経験
でした。

思い出深い学友会活動

情報システム学科 亀井 華菜子

充実した生活を送
れたのは、両親をは
じめ、本学教職員の
皆さま、友人があつ
てこそのことです。
この場をお借りして
心から感謝申し上げ
ます。本当にありが
うございました。

学生生活を振り返って一番
助けになったのはキャリア支
援課の存在です。私
は就職活動に対して
強い苦手意識を感じ
ていました。自分を
アピールすることに
不慣れで、不安が解
消されない毎日でし
た。しかし、キャリ
ア支援課のイベント
や講義に参加する中
で苦手意識が消えて
いきました。
履歴書の添削や面
接指導、企業単独説明会、さ
らに不安や悩みなどを学生同
士で話し合うサークル「Job
college」では、メンバート
話し合うことで自身
の立場や状態を客観
視でき、就職活動に
対する考え方がポジ
ティブになりました。
その結果、本学
で学んだ知識と技術
を余すことなく志望
企業に伝えることが
できました。
キャリア支援課の
存在がこれからのキ
ャリア形成を明るく
してくださったと考えます。

就活で苦手意識を克服

経営学科 渡邊 幹生

就職活動に
対する苦手意識を克服
し、志望企業に入社
することができました。

JABEE認定プログラム 28人に修了証書授与



日本技術者教育認定機構（JAB
EE）に認定されている、情報シス
テム技術プログラムの令和3年度修
了証書授与式が、3月18日に新潟市
民芸術文化会館（りゅうとぴあ）で
行われ、28名に修了証書が授与され
ました。経営情報学部情報システム
学科としては初めての修了生です。
JABEE認定基準は、国際的な
技術者教育認定制度に準拠してい
るので、修了生は世界に通用する教育
を受けた技術者であるといえます。
修了生は国家資格である技術士の第
一次試験が免除される優遇措置が受
けられます。
卒業後は、修了生、卒業生、技術
士、教員の集まりである「交流会」
に参加して、多様な業種間交流や、
自己研さんの場として利用してい
たいと思います。
（情報システム学科 教授 石川 洋）

「学び」を糧に295人が巣立つ

令和3年度卒業式

令和3年度（第25回）卒業式が3月18日、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）で行われ、295人（情報文化学部7人、国際学部125人、経営情報学部163人）の卒業生が学窓を巣立ち、社会への第一歩を踏み出しました。

式典では卒業生が名前を呼ばれて起立し、各学部代表に学位記が授与されました。続いて式辞に立った野崎茂学長は、「本学で国際化、情報化の何たるかを学んだ皆さんは、その知識、能力をこれか

ら社会に還元して行かなければならない。日本の未来、新潟の将来は皆さんの双肩にかかっています」と激励し、「顧みでの微笑みを忘れずに」と饒の言葉を贈りました。

卒業生を代表して経営学科の横木茅斗さんが「一人一人が、自分で決めた道を自分の足で歩いていきます。たとえこの先様々な困難に遭遇しても、大学での学びを糧にその困難を乗り越えていきます」と答辞を述べました。

式終了後に行われる恒例の祝賀会は、コロナ禍で3年連続の中止となりましたが、我慢続きの学生生活を強いられた卒業生に、大学と父母会がサプライズイベントをプレゼント。地元のアイドルグループ「NGT48」メンバー15人のパフォーマンスが行われ、卒業生たちはびっくりしながらも、笑顔を取り戻し楽しんでいました。

第25回までの卒業生は合計7,258人に

年度	国際文化学科	経営学科	情報システム学科	卒業生数
令和3年度（第25回）	131人	89人	82人	302人

※9月卒業生含む



令和3年度 卒業生 特別表彰

学長賞（学業成績優秀者）
国際文化学科 玉木 萌絵香
経営学科 横木 茅斗
情報システム学科 高橋 優介

課外活動賞

情報システム学科 海津 旭
国際文化学科 角田 侑祐
陸上競技部に所属し短距離走の競技力向上に励み、北陸陸上競技選手権大会において優秀な成績を修めた

経営学科 本間 龍一
ジャパンクラシックパワリフティング選手権大会へ出場を果たすなど優秀な成績を修めた

地域交流賞
国際文化学科 諸橋 美月
岩室地域において電気自動車による新たな観光体験サービスの開発や地域の魅力発信などローカルSDGs実践の取り組みを行いSDGs推進に貢献した

国際文化学科 上村 菜々美
新潟市内において様々なイベントの企画・運営に携わり地域の魅力を発信するなど地元住民と共に地域発展活動に尽力した

学術賞

国際文化学科 中山 未悠
TOEICならびに英検及び観光学に関する動画のコンテストにおいて優秀な成績を修めた

国際文化学科 秋山 岳太
TOEICならびに英検において優秀な成績を修めた

国際文化学科 津島 日菜子
TOEICならびに英検において優秀な成績を修めた

国際文化学科 廣瀬 祐太
HSK漢語水平検定試験において優秀な成績を修めた

国際文化学科 松尾 綾香
韓国語能力試験ならびにハンゲル能力検定試験において優秀な成績を修めた

